



# ラオスの こども通信

ラオス語出版 230タイトル、93万冊

開設した図書室 340か所

この本で大きくなった子どもたちがいます



## 「ラオスのこども」設立 40周年を迎えて

「少し違うんじゃない？」という思いが活動の始まりでした。難民を支援することも大事だけど、国を出ないでも豊かな生活を築く手助けはできないものかと。生き生きできる多様な世界に触れて欲しいと子どもたちに本を提供し、作り手を育成し、ラオス語図書を出版配布し、読書が世界を広げることを伝えてきました。昨今は学校図書室が学びを広げ、教育の質を上げる活動に取り組んでいます。あっといふ間の40年間。本当に多くの皆さまにご支援をいただき、一緒に学び歩んでくれたことに感謝です。さらなる未来のために、もう少しともに進んでくだされば幸いです。



# 子どもは未来をつかみたい

ベトナム戦争終結後、ラオスからも多くの難民が出る中、留学先の日本で母となったチャンタソンは絵本の持つ力にあらためて気づかされ、絵本にふれたことがない母国の子どもたちのもと、「ラオスの子供に絵本を送る会」を立ち上げました。そして、その思いに賛同した人々と日本の絵本や学用品を送ることから始めました。以来 40 年、学校で、地域で、子どもたちが本に親しめる

環境づくりを、ラオスと日本人々で思いつく限りのアイデアと知恵と力を尽くして手がけてきました。その支えとなったのが日本各地の人々との幅広い活動、交流です。急速に変化するラオス社会にあって「子どもたちが自らの力をのばし、人生を主体的に選択できる」よう、そしてその活動の担い手が多く輩出するよう、これからも取り組んでいきます。

## ラオスの子ども 40年のあゆみ

1980年

団体・他

**1982**  
「ラオスの子供に絵本を送る会 (ASPB)」設立  
絵本寄贈、-93 学用品寄贈

1989-91 学校建設 支援

片手間ボランティアの視点

1990年

**1991**  
ラオス事務所を開く



二代目ラオス事務所

**1993** 東京事務所を開く  
駐在員の派遣が始まる

1993 絵本にラオス語訳を貼付

2000年

**1996**  
ラオス事務所を移転

1998- 企業によるプロジェクト  
支援開始 (キヤノン株式会社など)  
国際機関との連携が始まる



「子どもの権利」を守る活動へと明確化

**2000-** 社員参加のボランティアイベント開始  
(沖電気工業株式会社など)

2003 ラオス語絵本プロジェクト 開始

**2002**  
法人格の取得にともない「特定非営利  
活動法人ラオスの子ども」に名称を変更

2002 外務大臣表彰  
2003- 会員制度開始



**2004-** 大学生の研修受入開始  
(学習院女子大学など)

**2008**  
IBBY 朝日国際児童  
図書普及賞 受賞

2010年

**2010**  
ラオス事務所を現在の場所に移転  
認定 NPO となる



三代目ラオス事務所

**2012-19**  
SCG 奨学金事業受託  
(高校生向け)

事業・組織運営の質の強化

**2016**  
社会貢献者表彰



2017- マンスリーサポーター制度開始

2020年

**2020**  
旭日双光章 受章  
(代表チャンタソン)

**2019-**  
ALC奨学金開始  
(中・高校生向け)

**2018**  
JICA 理事長賞 受賞  
(代表チャンタソン)

2019-22

中等学校での図書館建設と  
整備, 図書館応用研修, 図書  
館間・地域行政との連携構築  
(外務省N連)



図書館応用研修  
① 図書館サイン・展示  
② 授業における図書活用

学校教育とリンクした まなび・情報の拠点へ

図書室支援



読書推進からまなびの拠点へ

図書室を届けることから始まり、学校  
図書室の開設とその運営や読書に親  
しむための先生の研修、教育行政官  
の育成に力を注ぎました。さらに  
より広い本の活用のための研修、地域や学  
校間連携に着手しています。

**1992** ユニセフとともに  
移動図書箱運動を始める



**1994** ラオス事務所併設図書館 開設



**1995**  
学校図書室 HA (ハクアーン)  
の開設を始める

図書室の開設

開設した図書室：  
1 都 15 県  
340 か所

本を届ける活動

※ JICA草の根：JICA草の根技術協力事業  
外務省N連：外務省 日本NGO連携無償資金協力

**2001-06**  
教員養成校での  
読書セミナー開始  
2007年にカリキュラム化



図書室担当教員の育成

**2005-08**  
300校に図書セットを配付  
教育指導官への研修  
読書推進センターの設置  
(JICA草の根)

持続可能な自主的運営, 地域教育行政との連携を模索

**2008-11**  
教員養成校での  
ラオス語指導者育成



図書の活用法の指導

教育行政官の能力強化

**2009-10**  
小学校における図書活用強化

**2011-13**  
小中校授業での図書活用法を研修  
教育指導官に対し指導力を強化  
図書室活動の安定化 (外務省N連)

**2010-12**  
図書活用方法の研修  
読書推進センターの安定化  
教育指導官の育成 (JICA草の根)

**2015-16**  
大規模中等学校での  
図書館建設と整備  
(外務省N連)



図書館建物の整備

**2014-18**  
学校図書室の地域での展開  
地域文庫の開設 (JICA草の根)

村教育開発委員会の連携



図書館応用研修  
① 図書館サイン・展示  
② 授業における図書活用

学校教育とリンクした まなび・情報の拠点へ

ラオス語出版



ラオスでの出版から、担い手  
の育成、地域文化の記録化へ

子ども向けを中心に昔話、古典、創作、  
外国作品の翻訳、紙芝居、辞書、ハン  
ドブック、教養・実用本など多彩なラ  
オス語の本を出版。セミナーやコンク  
ールなど若手作家の育成を手がけ、近  
年は地域の歴史や文化を住民自ら本  
として残す活動にも発展しています。

**1990**  
ラオス語図書を  
初めて出版する



本をつくる活動

出版部数：  
230タイトル  
928,055冊

**1994** 子ども向け雑誌『ワイデック』出版支援



**1990** 『孤児と小さいおばけ』初版  
当会ベストセラー本



初版 現在(第10版)

**1998** ラオスの紙芝居の  
日本での出版を企画



**2002** 紙芝居セミナー



若手作家の発掘・育成

**2003** 紙芝居コンクール、『紙芝居ハンドブック』



入賞作品の出版

2004-05 環境教育 絵本・紙芝居 出版



**2005** 『絵とき辞書』改訂版



**2012** 『図書室(HA)マニュアル』  
初版



**2011** 教本『ラオス語の  
楽しい教え方』



ハンドブックの制作

**2016**  
地域の文化(祭り、民族、料理)  
を本にするワークショップを  
開催し、製作・出版



地域文化の記録化

**2020-22** 災害の記憶と故郷への  
想いをかたちにし防災に  
被災地サナムサイ中の先生・生徒合作の詩集  
絵本、本を活用した防災ワークショップも開催



製作・活用プロセスの住民参加  
2022 文字絵本 初版復刻



福音館書店版  
2020 『おおきなかぶ』  
ラオス語翻訳出版

子どもセンター



子どもの居場所づくり

チャンタソンと情報文化省のダラーさん  
の「学校以外の学び・遊びの場を」と  
のアイデアが「子どもセンター」とし  
て実を結びました。ラオス政府は各県  
に設置し、定着していきました。

創作にふれる  
機会の提供

**1995**  
最初の専門家派遣  
セミナーを行う  
(絵本、おもちゃ作り)

**1996-01** 紙芝居、絵画  
造形、身体表現の専門家  
セミナーを継続実施  
(郵政省国際ボランティア貯金)

子どもの居場所づくり

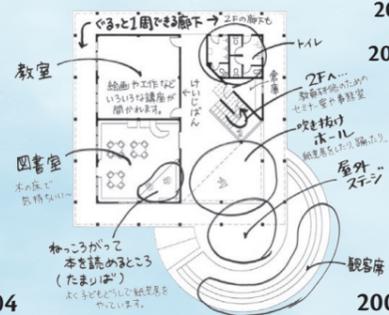


**2000** CCC スタッフ対象セミナー

支援したセンター：  
14 か所  
実施プログラム：  
音楽、舞踏、  
図画工作 ほか

**1993** 子ども文化センター  
構想

**1994-95, 97**  
子ども文化センター  
(CCC) を設立支援する  
(ポリカムサイ県、ヴィエンチャン都、サイヤブリー県、ルアンパバーン県)



**2004**  
ヴィエンチャン都子ども教育開発センター  
(CEC) の設立を支援する (外務省N連)

**2006**  
CECで第1回子どもブックフェスティバルを開催  
(2012 第8回まで開催、地方では教育局主催で2018までに10回開催)

**2004-18** 大学生ボランティアによるリコーダー教室  
(事務所図書室, 子どもセンター)

イベントの開催



**2007** CCCハンドブック作成, セミナー実施

**2013**  
CCC 事業評価を行う

活動・運営能力の強化

**2012** センター運営  
能力強化研修



**2014** 『おりがみハンドブック』

**2015**  
活動能力育成セミナー



**2015-19**  
おりがみワークショップ開催



今後の支援のありかた検討  
2020-21 CCC, CEC 実態調査

1980年

ラオス国内

**1983** ラオス国営テレビ  
局の放送開始

**1986** 新思想(チンナカーンマイ)  
政策導入、市場経済化始める

1990年

**1991** 憲法制定

**1994** ラオス-タイ友好橋 開通

**1995** ルアンパバーン 世界遺産に登録

**1997** ASEAN 加盟

2000年

ミレニアム開発目標(MDGs)策定  
2001 ワットプー 世界遺産に登録

**2000** ヴィエンチャン・各地で爆弾騒ぎ  
(空港、タラートサオ、バスターミナル)

**2004** ASEAN 議長国

2010年

**2006** 第2メコン国際橋 開通

**2009** SEAゲーム開催  
(東南アジア競技会)

**2013** WTO(世界貿易機関)  
加盟

**2015** 日本-ラオス外交関係樹立60周年  
中学の義務教育化

**2016** ASEAN 議長国

2020年

**2021** ラオス-中国  
鉄道 開通

**2019** ジャール平原の  
遺跡群 世界遺産に登録

持続可能な開発目標(SDGs)採択

## 「ラオスのこども(ALC)」の仲間たち 40周年 お祝いメッセージ



### ダラー カンラーヤさん 子ども文化センター 初代館長

国は独立を失うと言葉も失うのだとラオスの歴史は教えました。1980年代になると小・中学校でラオス語を教えますがレベルが低く、私たち作家は中学校で読書推進活動をしていました。そしてチャンタソンに出会い、子どもの本の出版、子どもセンター設立、作家・画家の研修を行いました。ALCや東京から来た専門家・友人から沢山の経験をもらい、ラオスの子ども達の教育のレベルを引き上げ、特にラオス語の教育と身の回りの総合的な知識を広げてくれました。



### 安井 清子さん ラオス山の子ども文庫基金代表

私自身もラオスの子ども図書館活動に従事してきましたが、1990年代には、ALCの皆さんと地方を巡回しました。あの頃は道路も大変、元・霊安室に泊まる羽目になったり…と、サバイバル。でも、大勢の子どもたちに絵本を読み聞かせする時の幸せは何にも勝るものでした。本を作り、届け、読書の楽しさを伝える努力を重ね、活動を発展させてきたALCには尊敬の念を抱いております。これからもラオスの図書館活動を先導して頂きたいです。



### ドワンドアン ブンニャヴォンさん 作家

幸運にもALCとは何十年も様々な活動をしてきました。本を届けるのに同行し、道路の地滑りや、連絡がうまくいかず、村に泊まるどころがなく、蚊とネズミと戦って一睡もできなかつたりもしましたが、遠いところから歩いて研修に参加した先生の顔を見て、疲れも吹き飛び、出版した本を楽しく紹介したものです。誇りをもってラオスの文学の園に足を踏み入れ、児童のための物語を書く能力を開発できたのは、会の活動に参加したからです。



### 後藤 知明さん 活動会員

「古本リサイクルで国際貢献」をスローガンに、93年に自治労町田市職内に古本リサイクル委員会を作り、本庁内に古本コーナーを設けました。活動は30年近く続いています。職員の育成はNPO活動の根幹で、生活の安定とスキルアップが肝心です。コロナ禍で大変厳しい状況であると推察されます。40年の実績と信頼を基礎に更なる発展と継続を期待しています。継続は力なり。皆さんと一緒に資金調達・組織拡大を少しでも進めましょう。



### ブンテン サイサイディーさん ヴィエンチャン県教育局 (県立図書館副館長)

ASPB (ALCの前身)と初めて関わったのは1992年。当時私は中等学校の教師で、2008年県教育局に異動し、足掛け30年のお付き合い。今ではALCの支援で県内38の学校図書室と12の地域文庫ができ、研修で先生や生徒が成長していくのが本当に嬉しく、ご尽力に感謝します。現場の私たち県郡教育局や学校と一緒に活動を進めるのがALCの良いところ。図書室改善や次世代の育成も含め、今後も県内の図書室設置や発展にご協力お願いします。



### やべ みつりさん 紙芝居・絵本作家

27年前、「天から降ってきた禍だと思って、ラオスに行っていただけませんか」。チャンタソンさんからの電話が始まりでした。僕は海外の国に行った事も、ラオスがどこにあるのかも知りませんでした。ヒコキに乗ってラオスを訪問したとき、なぜか子どものときの風を感じました。人々のすてきな笑顔に、豊かな自然に、文化に、親しみを感じ大好きになりました！僕の作った紙芝居や絵本を楽しんでくれている事をうれしく思います。「禍転じて福となる」。



### 長野 ヒデ子さん 絵本・紙芝居作家

40周年おめでとうございます。私の生まれた村には図書館も本屋さんもなく、大人になって絵本を読むようになりました。絵本や紙芝居は子どもの物だけではありません！子どもにも解る言葉で書かれた、赤ちゃんからお年寄りまでのもの。そしてその人を大きく育ててくれる力があるのです！「絵本も紙芝居」も「ごはん」と同じです！絵本を読む。紙芝居を楽しむ。これこそ平和そのものです。



### 沖電気工業株式会社 グループの社員、ご家族のみならず

弊社では22年前から「ラオス語絵本を作って現地の子どもたちに贈ろう！」と題したイベントを協働で実施してきました。これまで延べ734名の社員や家族が参加し、1,651冊の絵本を子どもたちに届けることができました。また、グループ内で賛同する社員から毎月募金を集めて社会貢献活動に活用する「OKI愛の100円募金」からの支援では、これまで10タイトル42,300冊の図書出版や、5校の学校図書室開設をおこなってきました。これまでの支援が、ラオスの子どもたちにとって生きる力となってくれることを願っております。



### 米山 芳春さん 元 JICA ラオス事務所長

JICA もラオスの開発のために長年事業を行っていますが、子どもたちの読書推進活動といった草の根の活動は、地域に根差して活動を続けて来られた「ラオスのこども」との連携があつてこそ、成果につながっていると考えています。私も何度か現地事務所を訪問させていただきました。子どもたちのためにコロナ禍でも休まず活動が続けている姿に感銘を受けました。これからもラオスの子どもたちのために、共に手を携えて歩んでいけたらと思っています。



### 下田 尊久さん 元藤女子大学准教授(図書館専門家)

祝40周年。2017年初めてヴィエンチャンを訪れ、この会が続けてきた絵本づくりや図書室開設の実績を目の当たりにしてその活動の意義を深く理解しました。それぞれの民族が地域で育んだ文化には、それらの知恵を世代、地域、民族間で繋ぐため共有する媒体が必要です。絵や文字がつまった「本」が果たす役割をあらためて強く感じました。いまその活動が中等学校の教育にも及んでいます。この会の益々の発展とスタッフの一層のご活躍を祈ります。



### ノイナー マニーヴォンさん 元 SCG 奨学生、ラオス国立大学卒業

SCG奨学金とALCとの出会いが私の人生を変えました。高校・大学と勉強を続けることが叶い、図書館では沢山の本に出会い、知識を得たり調べたりする面白さを教えてもらいました。昨年大学を卒業し現在は、将来弁護士になるのを目指して法律事務所に就活中です。今の子ども達には学びの大切さと、自分の頑張り次第で人生を掴めることを伝えたい…その為にもALCがラオスの子どもたちのために活動を続けてくれることを願っています。

※いただいたメッセージは編集したのものもありますが、下記 HP には全文を掲載しています。

### ラオスのこども通信 82号

2022年4月発行 代表:チャンタソン・インタヴォン 編集人:森透  
発行: Action with Lao Children / Deknoylao  
(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども  
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303  
TEL/FAX 03-3755-1603 e-mail: alctk@deknoylao.net  
http://deknoylao.net 郵便振替 00140-6-462494  
都営地下鉄浅草線西馬込南口下車徒歩7分

